

●乾燥性

温 度	10℃	23℃	30℃
可 使 時 間	30分	22分	15分
上塗り可能時間	12～24時間	12～24時間	12～24時間
歩 行 可 能 時 間	18時間以上	12時間以上	12時間以上
重作業可能時間	48時間以上	24時間以上	24時間以上

※乾燥時間は施工環境により多少前後しますのでご注意ください。

●性状・一般物性

試 験 項 目	試験結果	試験条件
外 観	A 液 着色粘稠液 B 液 淡褐色粘稠液	
硬 さ	80	JIS K 6253 ショアーD
摩 耗 質 量	130mg	JIS K 7204 テーパー式摩耗試験機 CS-17 9.8N 回転数1,000回
鏡 面 光 沢 度	95	JIS K 5600 入射角60度
ホルムアルデヒド放散等級	F★★★★	JIS K 5601-4-1

※試験結果は、弊社における試験に基づくもので、保証値ではありません。

●耐薬品性・耐油性

試 験 項 目	試験結果	試 験 条 件
耐 水 性	◎	水道水、1ヶ月間浸漬
耐 塩 水 性	◎	20%塩水、スポット試験48時間
耐 溶 剤 性	○	トルエン、スポット試験48時間
	○	キシレン、スポット試験48時間
	○	エタノール、スポット試験48時間
耐 酸 性	○	10%塩酸、スポット試験48時間
	○	10%硫酸、スポット試験48時間
	○	10%硝酸、スポット試験48時間
	○	10%酢酸、スポット試験48時間
耐 アルカリ性	◎	10%苛性ソーダ、スポット試験48時間
	◎	10%アンモニア水、スポット試験48時間
耐 生 活 材 性	◎	飽和砂糖水、スポット試験48時間
	◎	醤油、スポット試験48時間
	◎	ソース、スポット試験48時間
耐 油 性	◎	サラダ油、スポット試験48時間
	◎	灯油、スポット試験48時間
	◎	エンジンオイル、スポット試験48時間
	◎	切削油、スポット試験48時間

※判定 ◎=異常なし/○=やや艶引け ※スポット試験はJIS A 5705に準拠

施工上のご注意・メンテナンス

■ 施工上のご注意 ■

1. 下地の砂、ゴミ、ホコリ、油等を完全に取り除き、下地との付着を高めるため、事前にポリッシャー・サンダー・研削機にて下地調整を必ず行って下さい。また、新設コンクリート・モルタル面の表面には、レタンス（遊離アルカリ）による脆弱層が形成されるため、密着不良の原因となります。必ずワイヤー付きポリッシャー等でレタンス層を完全に除去して下さい。また、刷毛引き仕上げコンクリート面に施工する際は、当社までお問合せ下さい。強度が低いモルタル・セメント系下地調整材は、破壊される事により剥離する場合がありますので使用しないで下さい。
2. コンクリート・モルタルの養生不足は、水分の影響によりフクレ、硬化不良を、また、アルカリの影響により密着不良が発生する恐れがあります。コンクリート・モルタルの打設後、常温乾燥で夏期3週間以上、冬期4週間以上の期間が必要です。目安として、含水率が高周波水分計ケット社製HI-520・HI-520-2で測定し、コンクリートレンジの表示値が5%以下、かつpH9.5以下になってから施工して下さい。また、降雨直後で下地が水分を含んでいる場合は、2日以上乾燥させて下さい。
3. コンクリート・モルタル等に発生した亀裂は、Uカットしてフローンエポパテなどを充填し、亀裂面が平滑になるように研磨して下さい。旧塗膜がある場合は、当社にご相談下さい。
4. 2液反応硬化型ですから、可使時間に制限があります。施工時の温度、施工面積、作業人員等を考慮して、無駄のないように材料を配合して下さい。
5. ご使用になる環境を十分に考慮して、適正な材料と施工法を決定して下さい。
6. 気温5℃以下、湿度80%以上では施工しないで下さい。
7. 太陽光の当たる場所では黄変します。又、淡彩色は短時間でも黄変しますので、耐候性の良いトップコートを塗布して下さい。
8. タイヤ等のゴム製品が長時間接触していると、塗膜の汚染が生じる場合があります。
9. 床暖房やロードヒーティング床面には塗装しないで下さい。剥離や雪解けが悪くなるなどの不具合が生じる場合があります。
10. 10℃以下で施工した場合、十分な養生を行った後でも水により表面が白くなる場合があります。事前に床面に水が接触する事が分かっている場合はAUコートの塗布を推奨致します。

11. 硬化時間、硬化後の性能は、施工時の温度に大きく影響されます。

10℃以下 硬化後退 (カブリ、シワ、軟化等発生)	15℃～25℃ 最適	30℃以上 硬化促進 (ポットライフ短縮)
---------------------------------	---------------	-----------------------------

12. 常時、水を使用される部位については、あらかじめ下地モルタル等に水勾配をつけて下さい。
13. 施工時は引火、爆発、中毒等の事故防止のため、十分に換気をし、有機ガス用防毒マスク、保護メガネ・手袋等、保護具を着用して下さい。発火原因となる電気溶接、ガス溶断との並行作業を避けて下さい。
14. 直接皮膚に触れないよう充分に注意して下さい。もし触れた場合はウエス等で十分に拭き取り中性洗剤で洗って下さい。
15. 材料の保管、取り扱いについては、消防法、労働安全衛生法、その他に基づき、充分な管理をお願いします。
16. 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので施工時及び施工後の換気を充分に行ってください。
17. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時は許可を受けた産業廃棄物業者と委託契約して処理して下さい。

■ メンテナンス ■

1. 日常の清掃は、毛先の柔らかい「ほうき」でホコリを取り、乾いたモップで拭いて下さい。出入口には、防塵マットを敷いて下さい。
2. 汚れのひどい場合は、中性洗剤を使用してモップで水洗いして下さい。乾いたモップで水をよく拭き取り、水分を残さないで下さい。
3. 高濃度アルコール、次亜塩素酸系消毒液が長時間床面に付着して放置された状態又は長期に渡り繰り返し床面に滴下した状態ですと、白化・艶引けの原因となります。こまめに拭き取りを行うか、クリアー系トップコート（フローンヌルサットクリアー、AUコートクリヤー）を塗布する事で、不具合を抑制できます。
4. アルカリ、酸、薬品、油等が床にこぼれた場合、ウエス等で拭き取り、モップで水洗いして下さい。乾いたモップで水をよく拭き取り、水分を残さないで下さい。
5. 化学工場などでは、毎日水洗いし化学物質の蓄積を防いで下さい。
6. 月1回程度のワックスがけをしていただければ、美しさをより長く維持していただけます。

引火性あり	警 告	有害性あり	感作性あり
	1.引火性の液体である。 2.有機溶剤中毒の恐れがある。 3.健康に有害な物質を含有している。 4.皮膚に付着するとかぶれを起こす恐れがある。 5.変異原性の恐れがある。		
業 務 用	<注意事項> 1.通常の塗料に比べて幾分毒性が強く、吸入したり皮膚に触れたりすると中毒やかぶれ、また、重い健康障害を起こす恐れがありますので、取扱いについては、 容器に表示された注意事項を守って下さい。 2.アレルギー性等の特異体質、皮膚過敏症や呼吸器系疾患を有する人は、取扱いを避けて下さい。 (呼吸困難や喘息を引き起こす恐れがあります。) ※詳細な内容が必要な場合には、安全データシート（SDS）をご参照下さい。 ※SDSは弊社HPIにて閲覧、ダウンロードしていただけます。トップページから製品情報のページにアクセスし、各種SDS一覧をご参照下さい。		

●お問い合わせは……

 東日本塗料株式会社

本 社 / 〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
埼 玉 工 場 / 〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
仙台営業所 / 〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
新潟営業所 / 〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
静岡営業所 / 〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063



※製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。
※諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。
※このカタログは植物油インキを使用し、環境保全や大気汚染の低減に貢献しています。
※本書に収録したものの一部または全部の無断複製、転載を禁じます。

無鉛

F★★★★★

2液厚膜型エポキシ樹脂系塗床材 ローラー施工用

フローンエポローラー



 東日本塗料

2液厚膜型エポキシ樹脂系塗床材 ローラー施工用

フローンエポローラー

フローンエポローラーは、ローラーで施工する2液厚膜型エポキシ樹脂系塗床材です。施工が簡単で、1回で0.4mmの塗膜厚を得られます。耐衝撃性に優れ、耐久性、耐薬品性、耐摩耗性、防塵性などが求められる床に適しています。

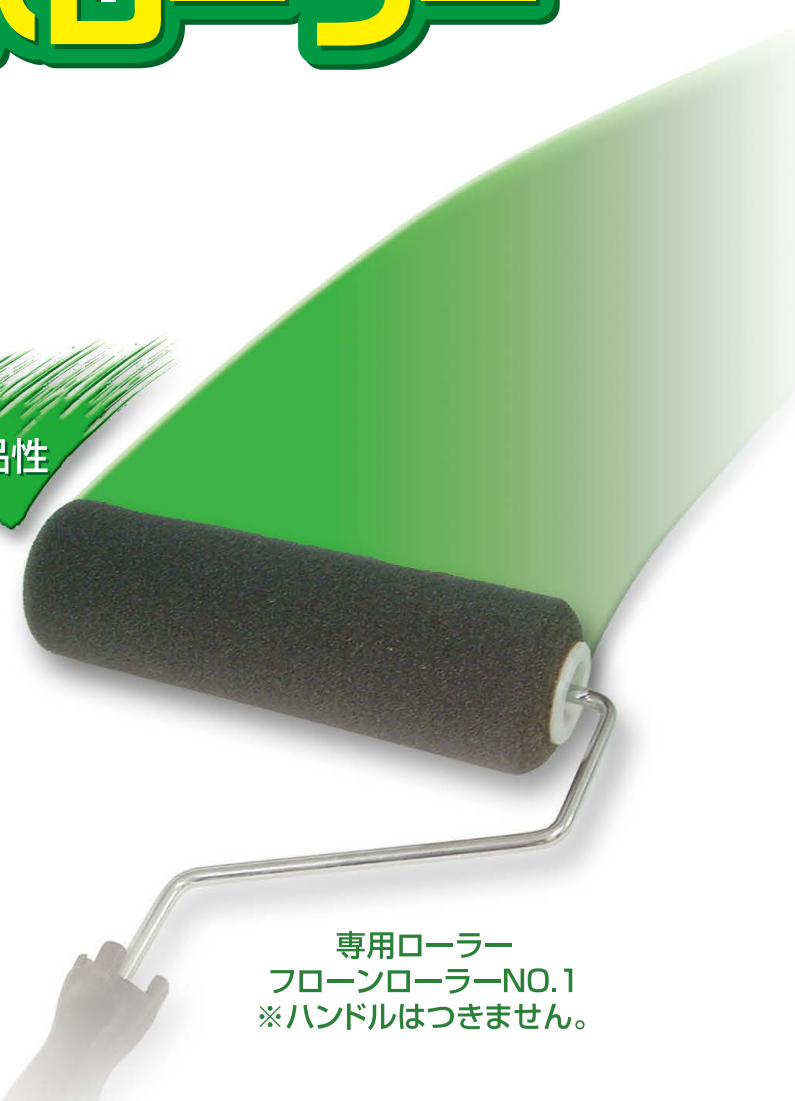
無鉛

耐摩耗性

耐薬品性

耐久性

防塵性



専用ローラー
フローンローラーNO.1
※ハンドルはつきません。

容量・配合比・塗装面積

品 名	容 量			配合比(重量比)		標 準 塗 装 面 積
	A液	B液	セット	A液	B液	
フローンエポローラー	12kg	2kg	14kg	6	1	0.6～0.8kg/㎡×1回塗りで17～23㎡
フローンローラーNo.1	9インチ(レギュラーサイズ)			—		

色 相

※色相はフローン床材色見本帳をご参照下さい。

●常備色(6色)

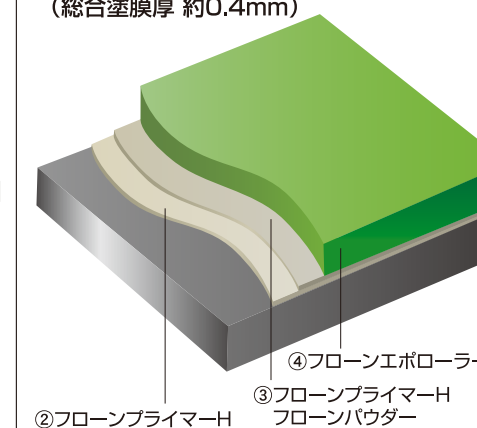
A-1	マスカットグリーン	B-4	ムーングレー	B-15	キャメルイエロー	B-22	マイルドグリーン
A-2	エメラルドグリーン	B-5	シルバークレイ	B-16	チャイナベージュ	B-23	ウォーターブルー
A-3	フレッシュグリーン	B-6	ハンターグリーン	B-18	ラインイエロー	B-24	ハーベストブラウン
A-4	フォックスグレー	B-7	セメントグレー	B-20	ライトグレー	B-25	マリンブルー
A-5	サンドベージュ			B-21	アーモンドブラウン	B-26	ゴールデンイエロー
A-6	スカーレットブラウン	B-12	ライトベージュ				

●標準色(15色) ※受注生産

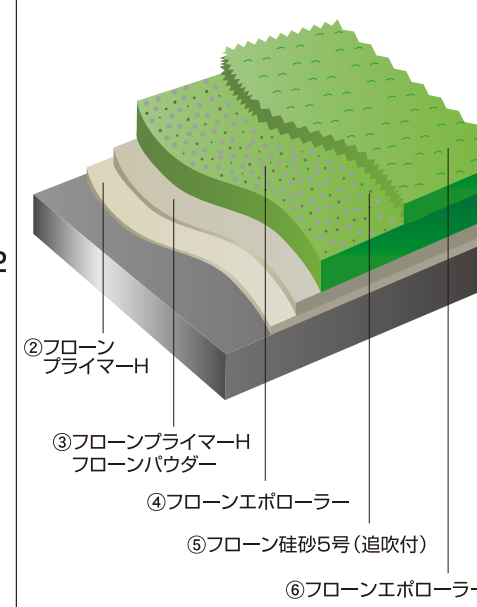
●指定色

同一製品でも生産ロットが異なると、常備色・調色品共に色が異なる場合があります。特に、材料追加注文などで異なるロットの製品を塗り継ぎした場合、仕上りに支障をきたす可能性がありますので、施工の際は、同一ロット、同一方法で、見切りの良いところまで仕上げて下さい。

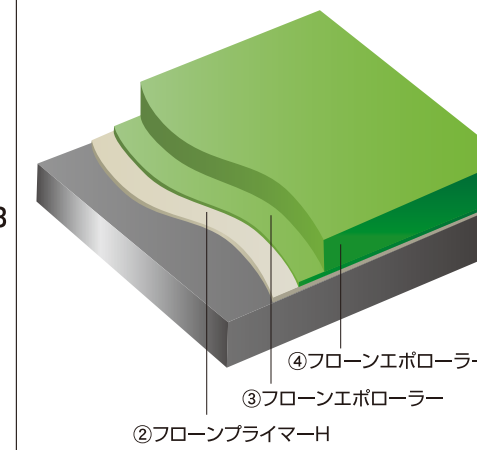
標準工法

	工 法 名	工程	材 料 名	使用量 kg/㎡	上塗可能時間 (23℃)	備 考
1	■FR-Pコーティング工法 (総合塗膜厚 約0.4mm) 	1	素地調整	—	—	※施工上のご注意をご参照下さい。
		2	フローンプライマーH	0.15	2～24時間	A液:B液=1:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、中毛ローラーにて塗布。
		3	フローンプライマーH フローンパウダー	0.15 0.15	2～24時間	A液:B液=1:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌したプライマーHを1に対し、フローンパウダーを1(重量比)の割合で計量し、混合、攪拌後、中毛ローラーにて塗布。
		4	フローンエポローラー	0.6～0.8	24時間 (軽歩行開放時間)	A液:B液=6:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、直ちに床面に流し延べフローンローラーNo.1にて塗布。

※工程3施工後、ピンホールが発生した場合には、フローンエポパテでピンホール処理を行って下さい。

2	■FR-P防滑工法 (総合塗膜厚 約2.0mm) 	1	素地調整	—	—	※施工上のご注意をご参照下さい。
		2	フローンプライマーH	0.15	2～24時間	A液:B液=1:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、中毛ローラーにて塗布。
		3	フローンプライマーH フローンパウダー	0.15 0.15	2～24時間	A液:B液=1:1(重量比)の割合で計量、電動攪拌機で攪拌したプライマーHを1に対し、フローンパウダーを1(重量比)の割合で計量し、混合、攪拌後、中毛ローラーにて塗布。
		4	フローンエポローラー	0.6	直後	A液:B液=6:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、直ちに床面に流し延べフローンローラーNo.1にて塗布。
		5	フローン珪砂5号(追吹付)	1.8	12～48時間	前工程直後、リシガン(口径3～4mmφ)にてフローン珪砂5号を散布。硬化後、余剰なフローン珪砂を除去。
		6	フローンエポローラー	0.6	24時間 (軽歩行開放時間)	A液:B液=6:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、直ちに床面に流し延べフローンローラーNo.1にて塗布。

■公共建築工事標準仕様書 薄膜流しのべ工法(平滑仕上げ)(総合塗膜厚 約0.8mm)

3		1	素地調整	—	—	※施工上の注意事項をご参照下さい。
		2	フローンプライマーH	0.15	2～24時間	A液:B液=1:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、中毛ローラーにて塗布。
		3	フローンエポローラー	0.3	12～24時間	A液:B液=6:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、直ちに床面に流し延べ金ごてにて塗布。
		4	フローンエポローラー	0.8	24時間 (軽歩行開放時間)	A液:B液=6:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、直ちに床面に流し延べフローンローラーNo.1にて塗布。

※工程2施工後、吸込みが激しい場合は、フローンプライマーH 1に対し、フローンパウダー 1の割合で計量、混合、攪拌後、中毛ローラーにて吸込みが止まるまで複数回施工をして下さい。
※工程3施工後、ピンホールが発生した場合には、フローンエポパテでピンホール処理を行って下さい。
※冬場(5～10℃)の施工時には作業性改善の為、ソルエポシンナーにて2%まで希釈を行い、エポキシ硬化促進剤を1%添加して下さい。